

各検討小委員会における検討状況等について

1. 開催経緯等

| | |
|----------------|--------------------------|
| 平成18年11月30日(木) | 第1回プレ協議会 |
| 平成19年2月15日(木) | 第1回学識者懇談会・検討小委員会座長会議 |
| 平成19年3月19日(月) | 第1回生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会 |
| 平成19年3月19日(月) | 第1回自立的発展を目指す検討小委員会 |
| 平成19年3月23日(金) | 第1回活力ある経済社会を目指す検討小委員会 |
| 平成19年4月27日(金) | 第2回活力ある経済社会を目指す検討小委員会 |
| 平成19年5月8日(火) | 第2回自立的発展を目指す検討小委員会 |
| 平成19年5月9日(水) | 第2回生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会 |
| 平成19年6月14日(木) | 第1回プレ協議会幹事会 |

2. 検討状況等

| | |
|-------------|--|
| プレ協議会以前 | 学識者及び国の関係支分部局、県、政令市等から422論点の提出 |
| 第1回プレ協議会 | 422の論点を16の論点として整理、3検討小委員会設置確認 |
| 第1回検討小委員会 | 九州圏の現状と課題に関する全般的討議 |
| 第2回検討小委員会 | 現状と課題に基づき、26の論点(課題及び対応の方向性)を整理 (安全9項目、自立9項目、活力8項目) 整理した論点のうち、特定の論点について討議(安全2項目、活力3項目、自立2項目) 論点と方向性の整理に合わせて、中間レポート骨子案の構成のあり方を検討及び中間レポート骨子案の構成よりキックオフレポート骨子案の構成を推定 |
| 第3回検討小委員会以降 | 残りの論点について、取捨選択し必要に応じて討議 論点整理結果に基づき各検討小委員会における課題及び対応の方向性、九州の将来像等を記載した「中間レポート骨子案」並びに、中間レポート骨子案をとりまとめ「キックオフレポート骨子案」を作成予定 また、骨子案に戦略等の概念等を加えた「中間レポート案」並びに中間レポート案をとりまとめ「キックオフレポート案」を作成予定 |

3. 今後の会議開催予定等

| | |
|---------------|--------------------------|
| 平成19年7月6日(金) | 国土形成計画シンポジウム(鹿児島) |
| 平成19年7月13日(金) | 第3回活力ある経済社会を目指す検討小委員会 |
| 平成19年7月17日(火) | 第3回生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会 |
| 平成19年7月17日(火) | 第3回自立的発展を目指す検討小委員会 |
| 平成19年9月上~中旬頃 | 第4回検討小委員会 |

4. 会議の開催を通じて整理されつつある視点等

第1回学識者懇談会・検討小委員会座長会議、第1回及び第2回検討小委員会、プレ協議会幹事会を通じて整理されつつある視点等については、以下のとおりと推定される。

なお、九州圏広域地方計画の理念については、第1回学識者懇談会・検討小委員会座長会議における検討体制資料及び国土形成計画法第三条より抽出したものであり、論点整理における検討の視点については、第2回検討小委員会資料「論点整理(たたき台)」より抜粋したものである。

4.1 九州圏広域地方計画の理念

九州圏広域地方計画は、九州圏における人口、産業その他の社会構造の変化に的確に対応し、その特性に応じて自立的に発展する地域社会、国際競争力の強化及び科学技術の振興等による活力ある経済社会、安全が確保された国民性生活並びに地球環境の保全にも寄与する豊かな環境の基盤となる圏土を実現するように、自然的、経済的、社会的及び文化的諸条件を維持向上させる圏土の形成に関する施策を、当該施策に係る国内外の連携を確保しつつ、適切に定めるものとする。

また、九州圏広域地方計画は、総合的な圏土の形成に関する施策の実施に関し、九州圏域の発展に向けて考慮を払うべき視野に立脚し、地方公共団体の主体的な取組みを尊重しつつ、圏域の団体や住民の積極的な参画と協力に期待することにより、効果的なものになるよう定めるものとする。

4.2 各検討小委員会における論点整理の視点

九州圏が概ね10年後の社会に対する視座を定めるとき、九州圏の特性及び九州圏を取巻く経済社会情勢等を背景とする現状と課題を的確に把握し、当該課題に対する対応の方向性や戦略、施策等を適切に展開することが必要である。

九州圏広域地方計画の検討にあたっては、「生活の安全と豊かな環境」「自立的発展」「活力ある経済社会」を目指すという3つの見地から議論を進めることとし、各々の見地から設置された各検討小委員会における論点について、以下の視点に留意しながら整理した。

(1) 生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会

減災の観点重視した災害対策の推進：

九州圏は、わが国の中でも特に災害の多い地域であることに鑑み、災害が発生した場合にも被害を最小限に抑える「減災」の視点

自然環境と人を取巻く社会活動と一体化した圏土構造の形成：

九州圏の豊かな自然環境を継承するため、自然環境だけでなく人を取巻く社会活動を含めた循環、共生を図る視点

九州圏の多様な主体による形成：

多様なライフスタイルを実現するため、多様な主体の参加、参画による個性と魅力ある九州圏の形成を目指す視点

(2) 自立的発展を目指す検討小委員会

九州圏の置かれている状況を地域自らが考え解決する地域：

九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自らが考え解決することを前提とし、地域の自助努力、主体的・総力的な取組み等により、地域の活性化を図る視点

自立と連携による持続可能な地域：

それぞれの地域が将来展望を有し、就業機会や社会的諸サービスを継続的に確保することで人の流れや経済の動き等を近づけるとともに、これら地域の互惠により九州圏の総合力が一層活性化するという好循環を生み出す視点

様々なライフスタイルを実現する地域：

多様化する価値観の中で様々な主体が目的を相互に共有して社会参画し、緩やかに連携しながら活動を継続することを促すような、新たな地域経営の形成を図る視点

(3) 活力ある経済社会を目指す検討小委員会

東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出：

経済成長の著しい東アジアと隣接する九州圏として、東アジアとの交流・連携を深め、東アジアの中で個性と魅力を創出し、発展を目指す視点

自立的な発展を形成する地域力の結集：

地域特性、伝統文化等の地域特有の魅力を活かした産業の創出、振興を目指し、それらが相まって九州圏の総合力が向上・活性化するという好循環を生み出す視点

5. 討議にあたって

本会議では、これまでの各検討小委員会における検討状況等を踏まえ、以下の事項について、討議頂きたい。

(1) 各検討小委員会における検討状況等について

各検討小委員会における論点と方向性の設定について補足すべき事項

各検討小委員会において特に議論を深めておくべき事項

将来イメージを踏まえた九州圏のあり方に関する事項

(2) キックオフレポート案の作成について

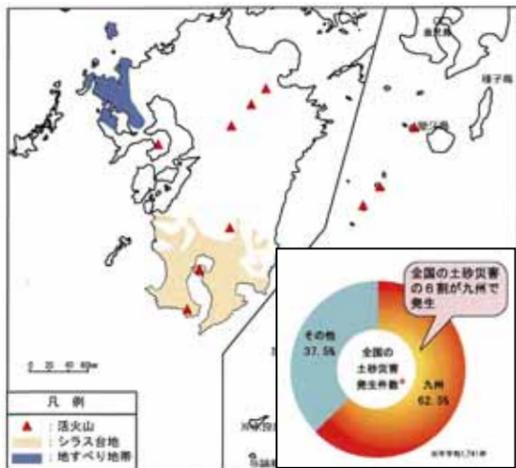
キックオフレポート案の全般的な構成に関する事項

キックオフレポート案の項目について補足すべき事項（項目の追加・削除等）

生活の安全と豊かな環境を目指す検討小委員会における検討状況等について

九州圏を取巻く状況について

傾斜地や火山が多く特殊土壌地帯が分布
気候変動による海面上昇や集中豪雨の不安定化
甚大な水害や土砂災害等の被害が多発する傾向



九州圏の状況について

温暖(平均気温20℃)な気候
世界有数の阿蘇カルデラ、世界遺産の屋久島など
豊かで美しい自然
豊富な植生の自然公園が圏土全体に広がる



ゲストスピーカーからの提言

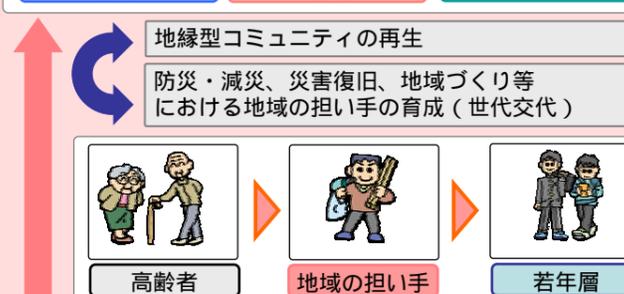
「資源循環に基づく暮らしの再設計と自立圏域の設定」
島根県中山間地域研究センター
主任研究員 笠松 浩樹 氏

- 消費社会の終焉
持続可能な社会システムの構築
自給圏域を目指す
- 中山間地域における発想転換
資源を有効に活用する条件整備
都市住民や企業のチャレンジ



これまでの議論で見えてくる将来イメージ

コミュニティが再生し、地域防災を担う人材が
継続的に確保された安全・安心な地域の形成



行政の責務としての
防災情報の的確な把握・提供、災害弱者への対応

行政機関

行政が、防災情報の的確な提供や災害弱者への
対応等のセーフティネットを担い安全・安心で
きる地域を形成

地域社会を営む上で必要な活動や防災対策と環境
が両立したバランスの取れた循環型社会の形成



生活の安全と豊かな環境における基本的整理

検討の視点

減災の視点を重視した災害対策の推進：
九州圏は、わが国の中でも特に災害の多い地域
であることに鑑み、災害が発生した場合にも被害
を最小限に抑える「減災」の視点
**自然環境と人間を取巻く社会活動と一体化
した圏土構造の形成：**
九州圏の豊かな自然環境を継承するため、自然
環境だけでなく人を取巻く社会活動を含めた環境、
共生を図る視点
九州圏の多様な主体による形成：
多様なライフスタイルを実現するため、多様な
主体の参加、参画による個性と魅力ある九州圏の
形成を目指す視点

議論の進め方

情勢の転換、新しい価値への対応(第2回議論)

- 災害の要因となる自然外力から守る「防災」
から災害が発生した場合にも被害を最小限に
抑える「減災」の視点に関する議論
- 豊かな水資源、自然環境、景観等への関心の
高まりへの対応に関する議論

九州圏特有の課題への対応(第3回議論)

- 中山間地域、離島半島の高い割合や東アジア
と地理的隣接性等の特性を踏まえた課題への
対応に関する議論
- 他の論点は必要に応じて議論

9つの論点

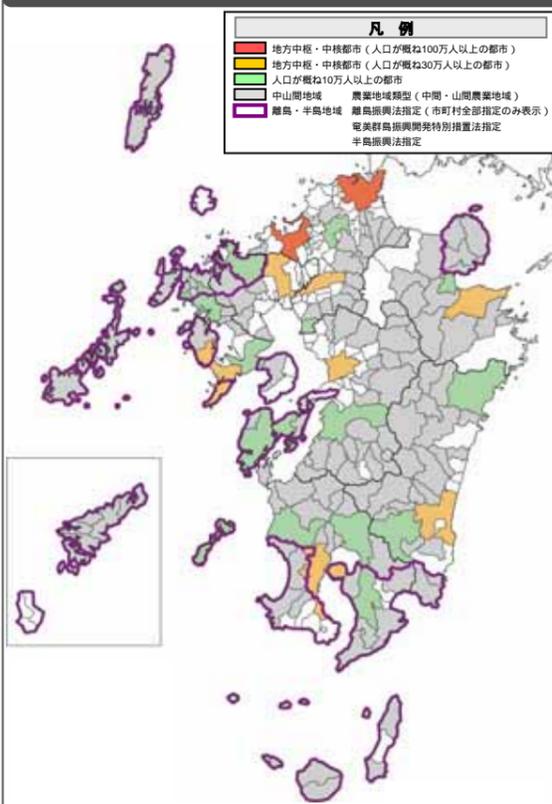
- 近年の気象変動等に備えたハード対策の推進
- 減災の観点を重視したソフト対策の推進
- 安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成
- 中山間地域、離島等におけるサービスの確保
- 安全・安心な食を支える九州圏の継承
- 多様で美しい調和のとれた九州圏の保全と継承
- 国際的な環境問題への取り組み
- 流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築
- 海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全

主な議論の内容

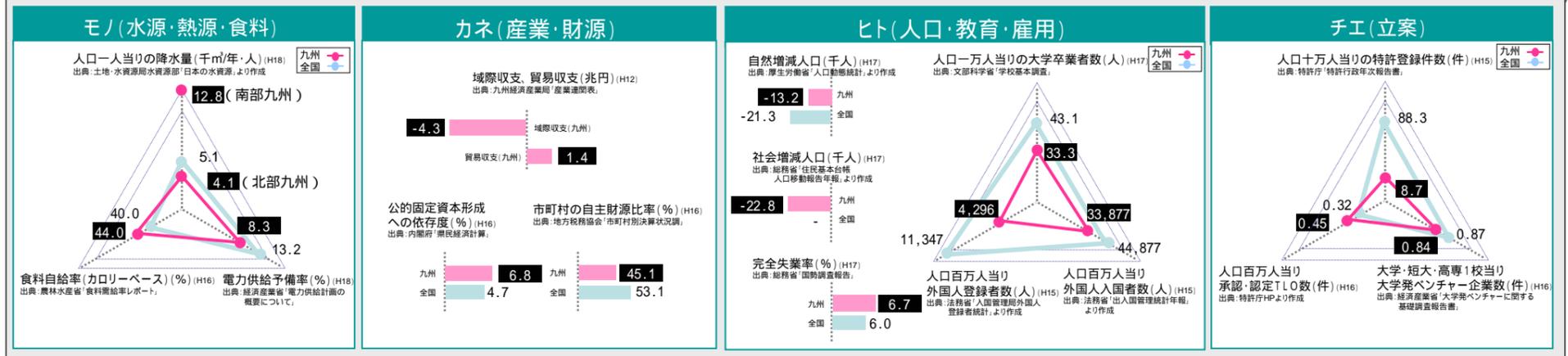
- 少子高齢化社会における災害対策
 - コミュニティ衰退への対応は、災害弱者や建物の危険性の事前把握が重要
 - 地域防災を次世代につなげていくには、若年層の担い手育成が必要不可欠
- 減災に向けた情報の重要性
 - 行政における正確な情報収集、適切な提供が第一
- 迅速な地域復興の観点からの災害復旧
 - 防災・減災だけでなく、被災施設の復旧や漂着物の撤去等の事後処理も重要
- 効率的な物質循環系の構築
 - 森林保全にはバイオマス利用等の有効利用を検討すべき
- 環境、安全等に対する意識の二極化
 - 環境、安全に対して極端に意識が高いか無関心かの二極化が進み問題
 - 災害を発生させない開発レベルや森林等の保全が必要

自立的発展を目指す検討小委員会における検討状況等について

九州圏を取巻く状況について



指標でみる九州圏の自立について

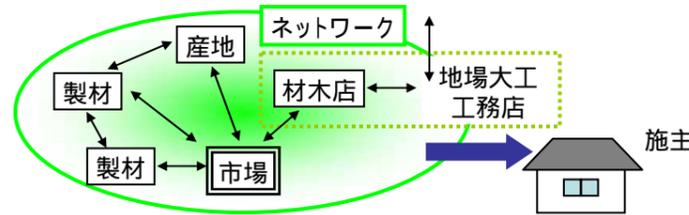


ゲストスピーカーからの提言

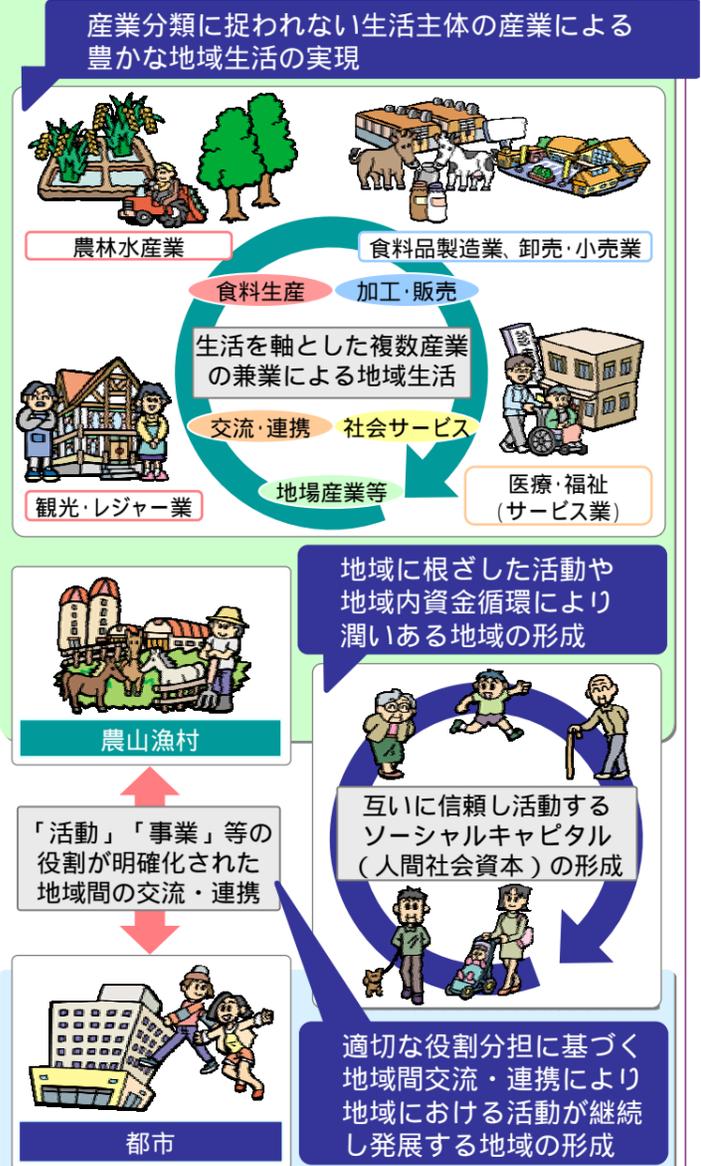
「自立した地域社会に向けて～顔の見える産業を考える」
松下生活研究所 代表 松下 修 氏

- ・地域内循環を考える
 - ・ソーシャルキャピタルの重要性の認識
 - ・農林産物の商品化だけでなく流通を目指す
- 「顔の見える産業」による地域の自立的発展

顔の見える木材流通と家づくりの構築イメージ



これまでの議論で見えてくる将来イメージ



自立的発展における基本的整理

検討の視点

九州圏の置かれている状況を地域自らが考え解決する地域:
九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自ら考え解決することを前提とし、地域の自助努力、主体的・総力的な取り組み等により、地域の活性化を図る視点

自立と連携による持続可能な地域:
それぞれの地域が将来展望を有し、就業機会や社会的諸サービスを継続的に確保することで人の流れや経済の動き等を近づけるとともに、これら地域の互恵により九州圏の総合力が一層活性化するという好循環を生み出す視点

様々なライフスタイルを実現する地域:
多様化する価値観の中で様々な主体が目的を相互に共有して社会参画し、緩やかに連携しながら活動を継続することを促すような、新たな地域経営の形成を図る視点

議論の進め方

- 自助努力による地域づくり(第2回議論)**
- ・九州圏のそれぞれの地域が、九州圏の置かれている状況を自ら考え判断し、持続可能な地域を形成するための議論
- 自立と連携による地域づくり(第3回議論)**
- ・それぞれの地域が人、モノ、情報等の相互に補完、連携し、持続可能な地域を形成するための議論
 - 他の論点は必要に応じて議論

9つの論点

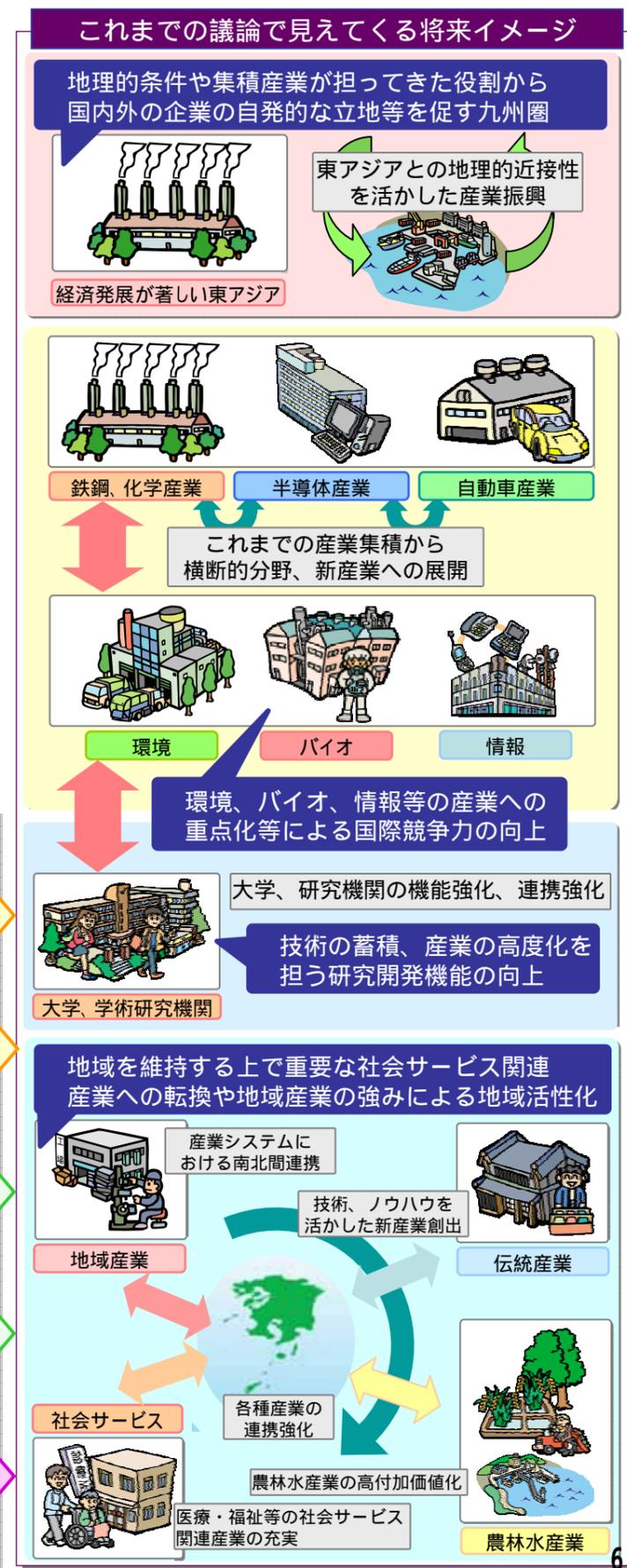
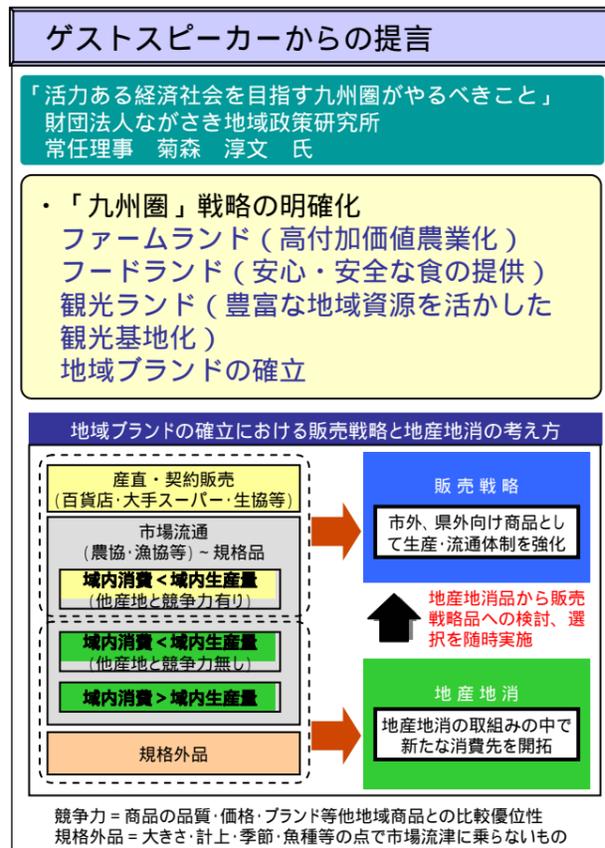
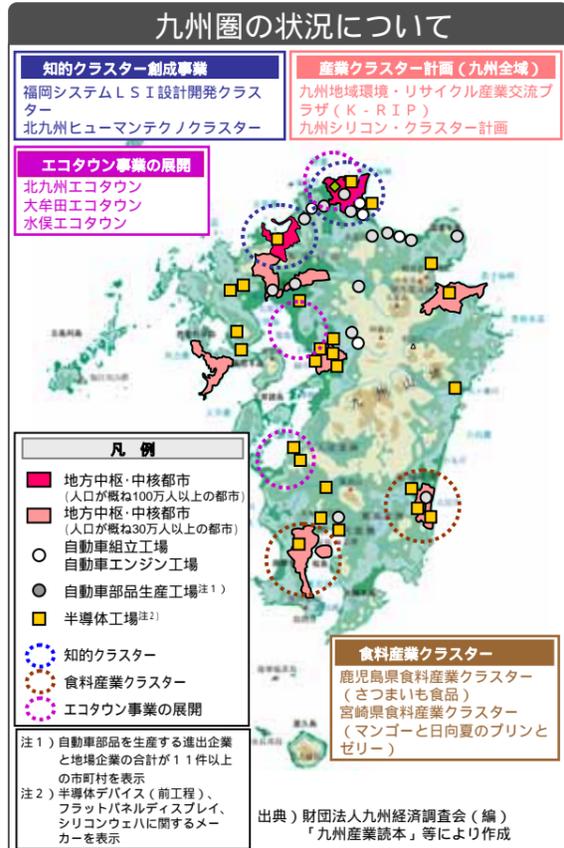
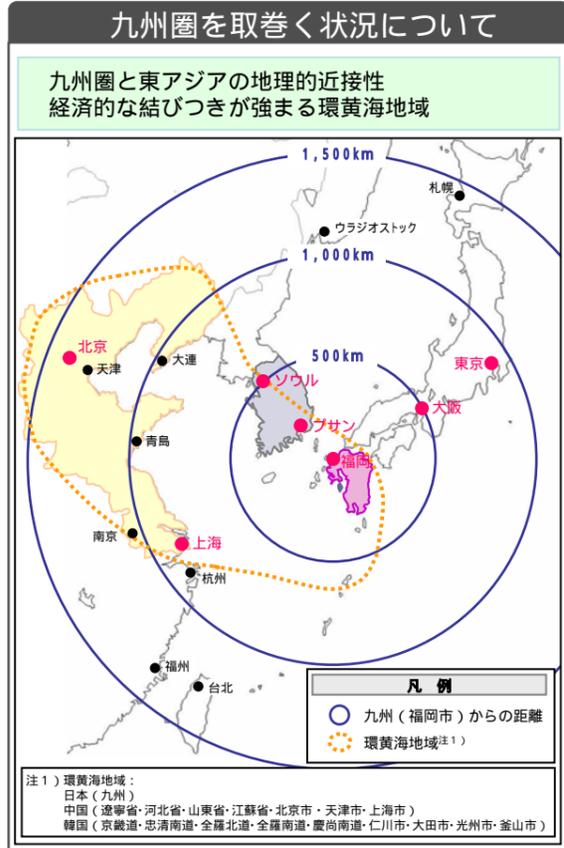
- 論点1 東アジアにおける九州圏の自立と連携
- 論点2 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の結集
- 論点3 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成
- 論点4 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開
- 論点5 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携
- 論点6 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択
- 論点7 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進
- 論点8 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり
- 論点9 地域の子育て力の強化

主な議論の内容

- 地域づくりの取組みは経済が根付きにくい
- ・地域資源を使っていかに地域に資金を残すか
- 中山間地域、中小都市の存亡が課題
- ・地域社会の継続が困難な地域は、自ら考え判断する動きにどう向かわせるか
- 農林水産業の所得は低く高齢化も進む地域を継続させる産業の議論が必要
- ・第2、第3の仕事地域資源を使っていかに成立させていくか
- ・離島を含めた中山間地域等の安定収入を実現するには「個別産業論」から「生活産業論」に転換すべき
- 地域社会の担い手は地域への定着が必要
- ・都市と農山漁村を結びつける取組みは、経済活性化に結びつく「事業」と経済に直接結びつかない「活動」に分ける時期

次回議論

活力ある経済社会を目指す検討小委員会における検討状況等について



活力ある経済社会における基本的整理

検討の視点

東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出：
経済成長の著しい東アジアと隣接する九州圏として、東アジアとの交流・連携を深め、東アジアの中で個性と魅力を創出し、発展を目指す視点

自立的な発展を形成する地域力の結集：
地域特性、伝統文化等の地域特有の魅力を活かした産業の創出、振興を目指し、それらが相まって九州圏の総合力が向上・活性化するという好循環を生み出す視点

議論の進め方

九州圏の産業振興と発展（第2回議論）

- 東アジアにおける著しい経済成長と連動しながら自立的な発展を実現するための議論
- 九州圏における産業発展の方策に関する議論

産業振興を支える環境の構築（第3回議論）

- 九州圏の産業振興を支える人材、産業構造等の産業を取巻く環境に関する議論

他の論点は必要に応じて議論

- ### 8つの論点
- 産業集積を活かした新たな産業展望
 - 新産業を核とした産業振興
 - ものづくり基盤の強化
 - 観光資源等による魅力創出
 - 東アジアの玄関口としての社会基盤の整備
 - 持続的な成長を牽引する都市圏の形成
 - 多種多様な人材が集積する産業構造の形成
 - 農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展

主な議論の内容

産業集積を活かした新たな価値の創造

- 自動車産業と半導体産業の融合やそれらの技能・ノウハウを活かした環境問題解決型の産業振興等の新たな視点が必要

企業進出上の九州圏の位置づけの明確化

- 国内外を見据えた九州圏への企業進出、マザー工場化などの優位性を確認すべき

環境、バイオ、ICT等の成長産業の育成

- 環境・バイオ・情報等はこれからの成長産業として重要
- 静脈物流や新産業創出における情報（コンテンツ）の重要性を認識すべき

研究開発機能の強化

- 大学を含めた研究開発機能を強化すべき

地域を支える産業振興

- 経済を支えてきた中核企業も議論すべき
- 地域産業は衰退しても技術を活用した新産業の創出は可能
- 建設業等の構造転換や水産業の販路拡大等も検討すべき

各検討小委員会の論点整理から見える九州圏の将来イメージ

| 九州圏の課題への対応の方向性 (「キックオフレポート骨子案構成図(案)」より) | 検討小委員会 における論点 |
|--|------------------|
| (1) 東アジアの中での九州圏の個性と魅力の創出 東アジアとの結びつきと九州圏産業の強化 | |
| ・産業集積を活かした新たな産業展望 | 活力 |
| ・新産業を核とした産業振興 | 活力 |
| ・ものづくり基盤の強化 | 活力 |
| 東アジアに開かれた交流・連携の推進 | |
| ・東アジアにおける九州圏の自立と連携 | 自立 |
| ・観光資源等による魅力創出 | 活力 |
| 東アジアの玄関口としての圏土構造の転換 | |
| ・東アジアの玄関口としての社会基盤の整備 | 活力 |
| (2) 自立的な発展を形成する地域力の結集 それぞれの地域独自の魅力を活かした地域の形成 | |
| ・地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の強化 | 自立 |
| 多様な機能が集積する都市と自然豊かな地域の 互恵関係の形成 | |
| ・持続可能で暮らしやすい都市圏の形成 | 自立 |
| ・美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開 | 自立 |
| ・自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携 | 自立 |
| ・維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択 | 自立 |
| 持続的な成長を実現する九州圏の形成 | |
| ・持続的な成長を牽引する都市圏の形成 | 活力 |
| ・多種多様な人材が集積する産業構造の形成 | 活力 |
| 地域を支える産業の振興と安定的発展 | |
| ・農林水産業等の地域を支える産業の振興と安定的発展 | 活力 |
| (3) 災害に強く暮らしやすい九州圏の形成 減災の観点を重視した災害対策の推進 | |
| ・近年の気象変動等に備えたハード対策の推進 | 安全 |
| ・減災の観点を重視したソフト対策の推進 | 安全 |
| 日々の暮らしを支える安全・安心の確保 | |
| ・安全・安心を確保する九州圏の圏土構造の形成 | 安全 |
| ・中山間地域、離島等におけるサービスの確保 | 安全 |
| ・安全・安心な食を支える九州圏の継承 | 安全 |
| (4) 世界に誇れる美しい九州圏の形成と継承 循環と共生を重視した美しい九州圏の形成 | |
| ・多様で美しい調和の取れた九州圏の保全と継承 | 安全 |
| ・国際的な環境問題への取り組み | 安全 |
| 美しい九州圏を支える水循環系の形成 | |
| ・流域圏における健全な圏土利用と水循環系の構築 | 安全 |
| ・海洋・沿岸域圏の総合的な利用と保全 | 安全 |
| (5) 多様なライフスタイルを実現する地域づくり 多様なライフスタイルを実現する取り組みの推進 | |
| ・多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進 | 自立 |
| ・住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり | 自立 |
| ゆとりある子育て環境の創出 | |
| ・地域の子育て力の強化 | 自立 |

導き出される3つの九州の将来イメージ

東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏への再構築

多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成

東アジアの成長と連動し自立的に発展する九州圏の形成

- 東アジアをはじめとする諸地域との交流連携の推進
- 東アジアの中での地域の個性と魅力、国際機能等を捉え直していく
- 重要性高まる東シナ海の活用や諸問題の解決に向けた広域的な取組の推進 など

東アジア成長を意識し自立的に発展する圏土構造への転換

多様で厚みのある活力あふれる九州圏の形成

- ブロックの成長のエンジンとなり得る都市及び産業の強化を促進
- 相互依存・補完関係にあるブロック内の各地域が互いに交流・連携を促進
- 安心して住み続けられる生活主体の産業・活動環境の創造
- 各地域において多様な主体の共同を促進
- 経済力だけでなく文化面や社会面を含めた地域力の結集 など

九州圏内で多様で厚みのある活躍の場の形成と活力の創出

自然と共生し美しく暮らしやすい九州圏への再構築

- 自然豊かで歴史文化を育む地域や都市のにぎわいなど多様で特色ある地域の形成
- それぞれの魅力を発揮し、相互に補い合って重層的に圏土を形成
- 地域間の互恵関係を維持発展
- 良好な自然環境や美しい景観の形成
- 安全かつ快適でゆとりある生活空間の形成
- 高齢化社会等に柔軟に対応した暮らしへの取組みの推進
- 環境負荷の低減 など

安全・安心で環境へ配慮した暮らしやすさを兼ね備えた圏域の形成

